

平成30年度 第1回芦別市総合教育会議 【議事録】

○日 時 平成31年2月19日（火） 午後4時から午後4時55分まで

○場 所 市役所2階 市長室

○出席者

（市 長）荻原 貢

（教育委員会）

教 育 長 福島 修史 教育長職務代理者 水上 博樹

教育委員 山本 融聡 教育委員 石黒 政司

教育委員 坂井 大樹

（事 務 局）

津幡総務部長、高橋企画政策課長、山田学務課長、本間生涯学習課長、長谷山百年記念館長、
長野体育振興課長、事務局職員2名

○傍聴者 なし

1 開会（津幡総務部長）

2 市長挨拶

平成30年度の第1回総合教育会議の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。
教育委員の皆さまにおかれましては、何かとお忙しいところ、全員の出席をいただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃より、市政の推進と本市教育の振興に格別のご理解、ご協力をいただいておりますことにも厚く御礼申し上げます。

本市は今、人口の減少や少子高齢化が進んでいる中において、これに怯むことなく市民の福祉増進、言葉を変えますと市民の幸福の実現と財政の健全化を政策の柱に据えて、特に教育や医療、さらには子ども子育て支援の対応、そして、これを支える持続可能な財政基盤の確立などを重点課題とさせていただき、これら課題の着実な前進と克服を目指して、市政を進めて参りたいと考えているところです。

加えて、教育行政の果たす役割も、ますます重要であると承知しているところでありますし、将来の本市のまちづくりを担う子ども達の健全育成につきましても、学校や家庭、さらには地域や行政が、十分連携を図りながら取り組んでいく必要があると考えますので、今後とも委員の皆さまには、ご指導、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

また、本会議におきましては、委員の皆さまとの意見交換を通じて、様々な教育課題について意思疎通を図りながら、今後の取り組みを進めて行くうえで大切な会議と認識しておりますので、ぜひ忌憚のないご意見等をお寄せいただき、市政の運営に反映していきたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

3 協議事項

（1）芦別市教育大綱の実施期間の延長について

教育大綱の実施期間について、第5次芦別市総合計画及び第2次芦別市生涯学習推進計画の終了年である平成31年度に合わせるため、1年間延長することを事務局から説明し、各委員から異議等がなかったことから、原案どおり決定とした。

4 意見交換

(荻原市長)

それでは、意見交換に入ります。

前回の会議においては、コミュニティー・スクールをテーマとして、活発な意見交換を行ったところですが、本日のテーマにつきまして、委員の皆さまからご意見等があればご発言をお願いいたします。(各委員から特になしの声)

特にないようですので、私から提案させていただきます。

教育の振興あるいは充実につきましては、今後も市政執行の重要な柱としていきたいと考えていますが、特に教育の振興につきましては、次代を担う子ども達の育成など、芦別市の人づくり、そして、まちづくりには欠かせない大切な施策だと考えています。現在、進めている10年計画の第5次総合計画が平成31年度をもって終了することとなり、翌年度から第6次の総合計画がスタートしますが、現在、策定に向けて準備を進めています。

今後、計画の策定にあたっては、総合計画審議会などでいろいろな議論あるいは意見交換を行っていきますが、委員の皆さまにおかれましては、教育の分野に関わりまして、現状における課題や懸念事項などを踏まえながら、今後10年間を見据えたなかで、重点的に取り組むべき事項とその内容について、ご意見をいただければと思います。

なお、いただいたご意見につきましては、第6次総合計画の策定に向け、十分参考にさせていただきますので、ご意見をよろしくお願いいたします。

(水上職務代理者)

前々回の会議においても、学力の定着と向上についてはお話をさせていただきましたが、施策の取り組みは続けてきているものの、それでも毎回、全国学力学習状況調査の本市の結果は、全国はもとより全道平均と開きがあります。そのため、底上げのためとして漢字検定など検定料等に補助金を出していただいておりますが、実施率が50%程度と低いことや家庭での学習時間のアンケート結果を見ると学習時間が非常に短い。それに対して、テレビやゲーム、インターネットを利用する時間が芦別の子供達は非常に長い。長い子では1日5時間という結果も出ています。いつ勉強しているのかと思うようなアンケート結果も見受けられます。

学習環境は、学校だけではなく家庭環境にもあるため難しい問題もありますが、今、次年度の教育執行方針を議論しているところですが、アンケートを通じて家庭学習をどれくらいおこなっているか、テレビは何時間見ているか、ゲームやインターネットの使用時間はどれくらいかについて、年1回ではなく、年に3回、4回と実施して、その結果を保護者にフィードバックして、学習時間が短いという状況を知ってもらいたいと思います。

家庭における家庭学習による学力の定着を図らないと、学校の先生の指導方法ばかりを言っても無理があると、長年教育委員として活動してきた中で感じているところです。まず、家庭で学習をするという体制になっていかないと学力定着、そして、向上には結びつかないのではと思っています。これは、私の個人的な意見ではありますが、家庭環境が一番大事なのではないかと思っています。

そのような周知徹底と今行っている施策の漢字検定や算数検定に結びついて、それをたたき台にして、さらに学力向上を目指していきたいと考えています。

次に、学習サポート教員についてですが、国からの加配を受けているところですが、PTAの要望等を見ましても、各校に1名の配置を望む声が多くあります。

やはり、つまずき感のある児童生徒が、つまずいたままでいるとずっとわからなくなってしまふ。視察などで伺った時に見ていますと、つまずき感のある児童生徒に対して、個別に対応できるサポート教員がいるのといないのでは差が見受けられます。財政状況が大変厳しいのは重々承知していますが、まずは各校に1名の配置をお願いしたいと思います。

(荻原市長)

学力の定着や向上への対応策ということでお話をいただき、後段では、サポート教員の充実化についての要請と捉えましたが、まさに家庭環境の重要性については、関係する団体等への対応とそれを通じて各家庭への周知など、一連の流れの中で、個人の学力を押し上げていこうとする仕組みづくりについて、そういったご懸念とご指摘をいただいた訳であります。

後段のサポート教員等の取扱いにつきましては、つまずき感のフォローアップというのは重要な教育課題であると思っていますから、このことはお互い認識をしながら、どう進められるかということについて、前向きに受け止めさせていただきたいと思っています。

この学力の件に関しまして、他の教育委員からご発言があればお願いします。

(山本委員)

私も学力の向上については、学校教育が一番の柱だと思いますが、家庭や地域との連携ということも大切なことではないかと思っています。今ほど、水上委員からもお話がありましたように、芦別市内の子ども達の家庭での学習時間や読書時間は、非常に少ない時間内容となっています。こういった課題を保護者と共有し、地域の力を借りながら子ども達の学力が向上できるようにと思っています。

(荻原市長)

保護者の領域だけではなくして、すそ野を広げて地域全体で連携を強化するという点において、重要な提起をいただいたと思っています。

いずれにしても、学力向上に向けた対応策、さまざまな役割もありますが、このことをお互いが認識、共有しながら、それぞれの役割の中でこういった意向を出し合いながら、つなげていけるかが必要と思っています。水上委員と共通するお話をいただけたと思っています。

その他ご意見ございませんか。

無いようですので、学力向上、定着に関してはここまでといたします。

それでは、他の教育委員からご意見ございましたらご発言をお願いします。

(石黒委員)

私からは、小中一貫教育の推進に関する意見を少し述べさせていただきます。

芦別市では、平成26年度から小中連携協議会が組織されまして、各中学校区において実態に応じた様々な取り組みの中で、児童生徒間の交流や教職員間の連携が図られてきたところです。そして、それをさらに前に進めるべく、昨年には芦別市の小中一貫教育協議会を発足させて、教職員の資質の向上はもとより、基礎学力の定着や学力の向上、中1ギャップの未然防止などの取り組みを行っているところです。今後も義務教育9年間を一つに繋いだ形で、様々な子ども達の発達過程に応じた、小中一貫教育のより具体的でかつ実践的な教育活

動の充実を推進していく必要があると考えます。将来的には、一つの校舎における小中一貫教育の充実というものも、選択肢から排除せずに一翼的に取り組んで検討していただきたい課題だと考えています。

(荻原市長)

ただ今、小中一貫教育の充実と強化についてお話しいただきました。長期的な視点も含め、非常に重要な課題だと思っておりますし、当教育行政としても小中一貫教育というのは今ほどお話しにもありましたように、小中一貫教育協議会を立ち上げまして、歩みは進めていますので、なお一層このあたりもこだわって議論していかなければならないと改めて思ったところです。

この件に関しまして、他の委員からご意見ございませんか。

(坂井委員)

一貫教育に関連して、教職員の資質の向上を図るということをやっていると思いますが、授業力や指導力の向上ということで、小学校の先生でも1年生から6年生までいろいろな先生がいらっちゃって、ものすごく行き届いた指導をされる方もいれば思ったような授業を実践できない方もいらっちゃって、それについては、同じ校内で研修をされているという報告は受けています。

ただ、中学校と小学校で目指すところを統一しようとなっていると思いますが、授業の改善などをぜひ小中で一緒に取り組んでいただいて、少しでも授業を理解できる子ども達を増やしていただいて、それが学力向上につながれば非常に効率がよいと思いますので、先生方の指導力、授業力の向上を小中一貫で取り組んでいただければと思います。

(荻原市長)

先生の指導力、授業力といいますか指導する側の対応ということでお話をいただきました。

それぞれの対応が異なる、温度差があることについて、受け手である子ども達にとってもあまり濃淡が付くと、教育格差にもつながりかねません。ぜひ、その取扱等について指導者たる先生方々の資質というところについても、合わせて順を踏まえた指導にあたっていただければと思います。

いずれにしても、さまざまな向上という部分では、教鞭をとる先生側もそうですし、受け手の子ども達もそうですが、お互いの底上げにつながるということは、資質の向上であったり学力の向上であったり、ある面では連帯感の向上にもつながっていくと思っていますから、取り組み方、関わり方をお互いに一歩進んでみて、市内にはうまく相乗効果を発揮できるような学力向上につながる素地というものがあると思いますので、教育委員会や教育委員の皆さまには、うまく橋渡しをしていただきたいと思います。

その他ご意見ございませんか。

無いようですので、この件については、ここまでといたします。

それでは、他にご意見等ございましたらご発言をお願いします。

(山本委員)

少子高齢化というのは、全国的な問題だと思いますが、市内においても新生児の出生数が

大変減少していると聞いています。現在、小学校2校、中学校2校で学校教育を進めていますが、児童生徒数の減少に伴って学校の配置についても、見直しを始める時期が来ているのではないかと感じています。

(荻原市長)

今後の児童生徒数の動向等を踏まえた小中学校の適正配置について、少し具体的な取組みを進めるべきではないかとのご提起を含めたご意見をいただきましたが、この件について他に何かございませんか。

(福島教育長)

時期をいつにするかは別にしましても、少子化が進み残念ながら児童生徒数が減少していくというのが実態でありまして、おそらくこの傾向は芦別市だけではなく全国的な傾向として、今後も続くものだと思っています。

そのため、そういったことを十分念頭に据えながらも、やはり大事な要素として考えるのは、次代を担う子ども達の健全育成を図っていくということが、教育行政で一番大きな目標だと思っていますので、そういった部分を具体的に展開していくためにも、望ましい集団生活が確保されるような一定の学校規模の維持というのは、避けられないと思っています。

現状、小学校2校、中学校2校という体制ですが、後々の児童生徒数を踏まえていくと、一定の学校規模を維持していくのが難しくなってくるだろうと思っていますので、そういう観点から近い将来を見据えた中で、小中学校の適正配置については、さらに本格的な議論をおこない、その中で一定の方向性というものを十分踏まえて、教育委員として議論を進めて行かなければならないだろうと思っています。また、そういった状況を踏まえながら PTA や地域の方のご意見等も十分把握しながら進めて行く必要があると思っています。

(荻原市長)

慎重に進めて行く課題だと思いますが、将来の出生状況を含めてある程度将来推計をたてられる訳ですから、それに至ってあるべき教育環境、これは低下をさせる訳には行きません。

より良い教育環境を提供するかは、行政もさることながら地域にとっても保護者の方々にとっても思いは同じだと思います。この辺のところをしっかりと共通認識のうえにたって、どういう形が望ましいのかということに帰結するのだろうと思います。ただ、これは機を逸することなく、しっかりと具体的に歩みを進めていきながら、良い環境の充実を図っていくことと表裏一体でありますから、慎重に取り進めて行く課題だと思っています。

その他この件についてご意見ございませんか。

無いようですので、ここまでといたします。

それでは、他にご意見等ございましたらご発言をお願いします。

(坂井委員)

合宿の推進についてですが、本市は合宿の里ということで交流人口による地域経済の活性化を目指すとうたわれていますが、合宿の具体的な柱でもあります宿泊施設ですが、いろいろな所から増やしてほしいという声が上がっていましたが、やっと施設の設計予算がついたとの報告が教育委員会議においてありました。大変ありがとうございます。

これからは、受け皿が増えるということになりますが、今後、団体をどのように呼び込むのかということを考えなければならないと思いますが、なかなか合宿団体の数は大きく伸びることはなく、競技によっては増えているところもありますが、減っているところもあり、相対では増えていないということが資料で分かりました。弓道やサッカーは増えているようですが、ぜひ、特色のある競技団体を引っ張ってきてもらい、合宿の推進を図っていただければと思います。

先ほど、2020年東京オリンピックの合宿の種目として、滝里ダム湖でのボート競技が候補に挙がっているという話をお聞きしましたので、従来無かったような競技をぜひ引っ張ってきていただきたいということもありますし、スキー場は一応来年までということですが、大事な施設として合宿の推進に合わせて、今後どのように活かしていくかを考えていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

(荻原市長)

宿泊交流センターの件につきましては、本日、31年度の予算概要説明を議会にさせていただきました。宿泊交流センターにつきましては、既存施設の向かいにある建物を改修して、既存施設と合わせて活用する構想を持っていましたが、コストパフォーマンス等を考えると改修より新築の方が将来の維持管理なども含めて効果的だということと、財源的な手当の手法もすそ野が広がっており、そういった国等の手当も意識して判断させていただいたところですが、したがって、この基本設計、実施設計あるいは地質調査等についても、この新年度予算に向けて進めさせていただきながら、できるだけ早期に形となるようにしたいと考えています。また、1万2,000人の宿泊の数が、大きく増えていないというご指摘もいただきましたが、そのとおりでありまして、まさに特色のある競技、サッカーとか弓道という話もいただきましたが、いろいろな形のなかで、そういった系を手繰り寄せながら、同時にそういった施設のキャパができれば、なお段階的につながる訳ですし、この合宿誘致に対する一つの呼び込み材料になっていくと思いますから、他への流れをせき止めるということも含めて、こういった対応に少し力を入れながら実現に向けて努力していきたいと思っています。

2020年東京オリンピックですが、滝里ダム湖を活用しボート競技ではなくカヌー競技になりますが、合宿ができるかという事前のオファーがあったところで、それが可能かどうか開発局とも協議した中で、ぜひ、活用くださいという話をいただいていますので、オファーが正式にあれば国と一緒に、ましてやダム湖がオリンピックの事前合宿に使われたということは、開発局にとっては大きなブランドにもなりますし、また、そこに人が集まってくる要素にもなります。

スキー場についてもそうですが、地域資源を活用して、広く芦別にお越しいただいて、そして利用いただいて、賑わいなり合宿の振興につながっていければと思っていますので、しっかりと対応できるように努力したいと思っています。

この件について、他にありませんか。

(石黒委員)

一点だけ、お願いしたいことがあります。

芦別市の合宿の里推進協議会の規約の目的に、スポーツ・文化の振興、及びまちの活性化

などがうたわれていますが、本市の合宿の里推進事業は、大きくスポーツに偏っています。悪いと言っている訳ではありませんが、今後は、文化・芸術といった団体の合宿誘致に向けた活動も積極的に取り組んでいただきたいと思います。よろしくお願いします。

(荻原市長)

決して偏った訳ではありませんが、たまたまこういう状態であるということですが、ぜひ文化・芸術の分野につきましても、機会を捉えて逸することなく、ぜひ発信させていただいて、一つでも二つでも団体にお入りいただけるような努力を、これからも所管課と一緒に取り組んでいければと、そんな仕組みを含めて進めて行きたいと思います。

その他この件についてご意見ございませんか。

無いようですので、ここまでといたします。

それでは、他にご意見等ございましたら、ご発言をお願いします。

(福島教育長)

今ほどの学力の向上対策など何点かについて、教育委員の皆さまからお話があったところですが、これ以外に本市における教育行政の課題は、まだまだあると認識しているところです。そういった中で、お話をさせていただくとすれば、特別支援教育について、今後ともさらにその推進と充実を図っていかなければならないと考えているところです。

ご承知のとおり、児童生徒におきましては、それぞれいろんな個性や特性がある訳ですが、その中でも特別な教育的支援を必要とする児童生徒が存在しますし、そういったことを考えますと、一人ひとりの個性とかニーズといったものがありますから、それらに応じた適切な対応が必要と考えているところですし、そういった観点に十分に立ちながら、学校をあげて児童生徒、あるいは保護者の心と寄り添いながら、できうる対応を今後しっかり行っていくことが、重要であると思っています。

教育委員会としましては、教職員の特別支援教育に関わる資質の向上に向けての研修を行っていくことや、特別支援教育を担当する学習支援員、さらには特別支援学級の介助員の配置など、財政的な見地から予算措置などの必要な部分もありますが、必要な教育環境の整備をしっかりと進めて行くというのが、教育委員会としての大きな責務だと思っています。

そういった中であって、芦別市には一つ大きな優位性があると思っているのが、20年以上パートナーシップという関係性にあります星槎グループの存在です。星槎グループにつきましては、発達障がいを含めた学習障がい教育を長年にわたって進めてきているという実績がありますし、加えて特別支援教育の指導者を養成する大学も存在するわけですから、これまでも星槎グループからは本市の特別支援教育の推進・充実に向けて、いろんな形で支援、協力をいただいているという、こういう大きな優位性がありますので、今後につきましても他にはない本市の恵まれた環境ということを十分に踏まえながら、星槎グループのお力も借りながら、本市における特別支援教育というものをさらに発展・充実させていくことが必要だと思っています。

やはりその目的とする所は、児童生徒の社会適応能力をしっかりと醸成させていくというのが一つでもありますし、先ほどの学力向上の話の中でもありました、つまりき感あるいは困り感をもっている子ども達も多数おりますので、そういった部分の軽減をしっかりと図って、学習に意欲を持っていけるような環境づくりにもつながっていくような、そういった大きな

二面性を持ちながらしっかりと進めて行きたいと思っているところです。

また、別の話になりますが、前回の会議において意見交換のテーマとなりました「コミュニティ・スクール」についてですが、その後、準備委員会を発足するなどいたしまして、着々と準備を進めています。また、この1年あまり、市民の方々あるいは各種団体の方々のご理解をいただくということが必要なことから、可能な限りの団体にお邪魔させていただいて、コミュニティ・スクールの目的などをお話しさせていただき、今後、学校や児童生徒の応援団になっていただきたいとのお願いをしてきており、少しずつですが機運が盛り上がりつつあるかと感じているところです。新年度からのコミュニティ・スクールの導入をしっかりと進めて、そして、市民の皆さまからいろいろなお力を頂戴しながら、子ども達の成長にこの制度を利用しながら進めて行きたいと思っています。相当長くなりましたが、私からは以上です。

(荻原市長)

まさに星槎グループとの関わりは、本当に長い歴史の中で培わせていただいて、大変私共も恩恵を受けているところでもあります。やはり教育というものは誰もが等しく受けられるし、受けさせなければいけない、そして、その土壌が芦別市にはあり、そのパートナーがいる。大変ありがたい環境に今あると思っていますから、これからも一緒に進めて行くうえで、そういった問題や課題などにもダイレクトに関わりをもっていただくような、そんな教育を続けることができると思っています。

また、コミュニティ・スクールの話もありましたが、本当にこのことは子ども達の人間性なり学力、これを育むその狙いが大きなポイントだと思っていますが、それはこちら側からそのことを伝え置くことばかりではなく、みんなが関わってくれていると子ども達に実感していただくことが大事だと思います。

これも先ほどの話に繋がりますが、一方通行では教育にはならないので、一番の受け手である子ども達が、どんな風に受け止めるかというところ、どう関わっていくのかというところ、そしてその関わり方を上手く引き出してあげるというところが、それぞれの役割もありますが、一緒になってジョイントしなければ前には進まない、前に進むことによって学力になり資質の向上につながっていく、こういったきっかけというところでは、コミュニティ・スクールが準備を進めていただいているとのことですので、この辺の具現化をより一層進めて行くということについても、やはり私の関わる立場からも正確に取り組んでいかなければならないと思ったところです。

この件について、他にありませんか。

(水上職務代理者)

教育長から星槎グループの話がありましたが、芦別小学校の視察になりますが、特別支援学級の子供達を見ますと、一人ひとりがすごく個性がありますが、それに合わせて対応できる先生方がいまして、それが星槎グループの範疇なんだと。

数年前に教育委員5名で中学校に伺った時に、そこは特別支援学級ではなかったのですが、その学校には教科書がない、子ども達一人ひとりの個性、つまりきに応じて、先生方は大変手間がかかるのでしょうが、それぞれに個別の課題を与えて授業をされていて、子ども達も生き生きとして、皆さんで授業をされていました。そういったノウハウというものは、星槎

グループは本当にすごいと感銘を受けて帰ってきたところです。

そのようなバックボーンとして星槎グループがいて、芦別市に関係が深いということで、そういった子ども達のためにもご協力いただいている訳ではありますが、さらにそういったノウハウをいただいて、芦別市のような特別支援学級は管内にはない、というぐらいアピールできるまでにもっていければ、もっとすばらしいのではないかと、星槎があるというのは特別な意味合いがあるのではないかと思います。

それぞれ手を携えて、そういう特別支援に対する子ども達の将来のための支援というもので、何かもっと光るものができたらもっともっと素晴らしいのではないかと思います。知的障がいのある大人のかたの支援として、従業員として使っていただけないかとある団体から依頼を受けたことがあります、その方は夢のある方だったんですが、やはり一般の方とは同じことはできないかもしれませんが、あるその向いた部分というか素晴らしい部分においては、絵画であったり何か普通と違う能力を発揮された場合やニーズが当てはまった場合においては、健常者よりももっと素晴らしい結果を出せることを見せていただいたことがありましたので、そういった子ども達のためにも学習機会が与えられたら、もっと素晴らしい芦別市の教育になるのでないかと思いますし、その協力者としての星槎グループがいるということはすばらしいと思うので、これからもさらに深いタッグでいけたらいいなと思いますし、それをさらに進めていただきたいと思います。

(荻原市長)

星槎国際高等学校は、優位な教育資源だと思います。先般、星槎高校女子サッカー一部が創部5年目にして全国女子高校サッカー選手権で優勝したという快挙がありました。そのことでは、文武両道という形の中でその一角を担う本部校が芦別市にある訳ですから、これはある面では教育のブランドでもありますし、そして、先ほどお話しいただきましたように、それぞれの子供達がそれぞれの光るものを持っている、それを上手く引き出してあげるの、先生方の指導力なりあるいは周りの大人の仕事ですが、そういうことは、非常に大事なことで、なかなか今までは気付くところと気付かないようにしている、今はそうではなくそれぞれが個性として持っている素晴らしさというもの、秀でているということは、まさに自分自身にとってのブランドなんですね。それを上手く伸ばしてあげる、育ててあげる、守ってあげる、そのことを意気に感じてその当人もさらに伸びしろをもって、サッカーでいうと宮澤ひなたさんですが、今ではなでしこジャパンのメンバーにも選ばれていて、さまざま状況の中にあっても、そういったキラリと光るものをお持ちなので、その辺のところをしっかりとフォローアップしていくということも大切な事であると思っています。逆に言うと、そういう環境はまだ芦別市にあるということについて、改めて私共は感謝をしながらそのことをさらにいろんな意味でつなぎ合わせながら、教育向上に向けて行ければとお話を伺いながら感じたところです。

その他に何かご意見等ございますか。 ～ 各委員なし ～

ありがとうございました。幅広く各委員からお話をいただきました。5点ほどあったと思いますが、一つ目には学力の定着と向上の対策、二つ目には小中一貫教育の推進、三つ目には学校の適正配置、四つ目には合宿の推進、五つ目には特別支援教育の推進という大変貴重なご意見含めていただきたいと思います。

これらにつきましては、芦別市の学校教育の推進なり充実なり地域の活性を図っていく上

での大変貴重な地域課題だと受け止めておりまして、ぜひともこういった課題、その解決、さらには克服に向けまして、前進をさせていかなければいけないと考えている次第であります。その上におきまして、やはり先ほどからもお話がございましたように、これは決して学校だけではなく、そして、家庭だけではなく地域や行政が一体で連携をとったなかで、いわば地域一丸、地域総がかりということで進めて行くことが重要であると改めて確認されたのではないかと考えています。

冒頭でも少しお話しさせていただきましたが、こういった5つのご意見を含めて、青少年の健全育成といったことにつきまして、しっかりと軸足を置いて取り組んでいかなければいけないということも感じた次第であります。少子化が急速に進展していますが、次の時代を担います青少年の存在というのはまさに地域にとりましては宝でありますので、そういった青少年の心身ともに健全育成が図られるように、そして、また将来のまちづくりの担い手として、当芦別にふるさととしての誇りや愛着を持っていただいて、しっかりと自立ができる、そのことのために地域全体で支えながら育てていく、そういった環境をさらに進めて行くということが必要だと再認識させていただいたところでです。

いずれにいたしましても、原課においてはさまざまな教育課題が山積していますが、一つひとつ着実に前進できるように、ぜひとも教育委員の皆さまにおいては、ともども思いを一つにさせていただいて、これからも努力してまいりたいと考えていますので、私の意見として申し上げて意見交換のまとめとさせていただきます。ありがとうございました。

5 その他

各委員及び事務局から案件なし

6 閉会

(荻原市長)

その他特に無いようですので、本日の総合教育会議につきましては、以上をもちまして閉じさせていただきます。

今後におきましても芦別市の教育行政の振興・充実を図っていくうえで、各教育委員の皆さんと意見をさせていただき、忌憚のないご意見をいただきながらこれからも進めていきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げまして、本会議を終了させていただきます。本日はありがとうございました。

以上